



国労せんだい

No. 2690
2015年1月30日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田昌仙

運動の方向性を確認

新年特集号 活動家交流集會を開催

地方本部は1月11日、仙台市内ホテル法華クラブにおいて「2015年春闘勝利活動家交流集會」を開催した。會議には各支部と分会代表が参加し、賃金闘争をはじめ労働条件改善や組織問題など意見交換を行い、今年1年の闘い方向性を全体で確認した。

国労がいるから

明るく楽しい職場
主催者を代表し地本大沼委員長は以下の挨拶を行った。

（要旨）
運動課題を確認し合う。特に15春闘をどう捉えどう闘うのか方向性の確認を。取組みの一人一要求を

15春闘の争点とアベノミクスと労働者

労組の主張（連合・全労連・全労協）は共通認識：「アベノミクスで業績好調なのは輸出型大企業、中小には恩恵なし。円安と消費増税による物価高で実質賃金はダウン。生活維持とデフレ脱却のため最低2%、多くの産業では3%のペアを要求する」



講演する松上隆明氏

春闘は賃金の原則を企業に守らせる取組み：生計費原則（労働力の再生産費）均等待遇（同一労働同一賃金）同じ労働をしているのに賃金が違えば、低い方に合わせられてしまう。正規・非正規の問題もそう。この二つを守ることを春闘の中で再確認すること。JRのGSは5年で解雇。その間受験し正社員を期待しているが多くの報われない。この使い潰しを許しては会社は正社員を採用しなくなる。デフレ原因の一つ。

デフレが20年も続き、経済が縮小、賃金が下がっている状況は資本主義史上初めてのことで、大変な異常。儲かるものがなく、投資先がない現状。資本主義社会が成り立たない。値崩れし値段が下がる。デフレはリストラ合理化を勧めすぎた結果。労働力の再生産費が支払われない結果であるが、財界は、労働者を絞るしかないと言っている。経済の末期症状。日本の労働者平均賃金は400万（正規・非正規込み43歳）で先進資本主義国

で最低、経団連は日本の賃金は高いと言っている。確かにトヨタの正社員だけみれば高い（820万39歳）が他にこんな企業はない。日経連は、一昨年までドイツと同じ賃金水準だと言っている。1300時間労働に12000時間。サービスマン労働もある。この10数年で民間企業の賃金が1割減（23兆円）。個人消費が日本の経済規模（GDP）の6割を占めるが、その一割が減ったので経済が活性化するわけがない。子供でも分かること。安倍首相は金融対策で円安に誘導し輸出で売り易くし

宮城県支部山田書記長
職場問題。合理化・委託化が進む。JRと比較し仕事国内的には公共事業をバラまき、輸出型大企業が儲ければ、トリクルダウンで中小労働者も潤うと主張。高度成長期の路線。脱却するには賃上げと雇安定から国内消費回復しかない。春闘は単に労働者の生活のための闘いではなく、日本経済・日本社会全体を立て直せるかの鍵を握るもの。

松上氏は豊富な資料を元に日本の経済状況や企業と労働者の現状について説明。更に民間労組の取組みと非正規労働者の闘いの2事例を紹介、我々の闘いの可能性と展望を示唆した。【昌】

また2月20日、中央本部へ激励行動の取組みを進め

1.11 春闘勝利活動家交流集會
1.13 第4回地方執行委員会・第1回闘争委員会
1.14 第2回春闘事務局会議

1.17 18 地本組織対策会議
1.23 地方代表者会議
1.24 国労本部第185回中央委員会

円安物価高アベノミクスを応援するために賃上げをするのではない。日本は高所得と財界は言うが、先進国では日本だけが所得が低下。今後中央委員会で決定される方針で交渉に入るが、地方からその後押しをしつかり取組む。政治情勢。昨年末の選挙結果。今後厳しい環境が想定される。自民の得票率は16%で61%の議席を確保であり選挙制度そのものの問題を指摘し考えなければ。52・66%の低投票率であり、国民の支持を得たとは言えない。国民の意識と離れた政治をチエックをし世論に訴えていく。原発再稼働問題。我々は

福島の問題を抱える。避難している方々に寄り添い必要な対策を一緒に考えよう。運動課題。今後中央・エリア・地方で活動方針について議論する。春闘が直近の課題だが、抱えている運動課題をともに考え、組合員がいるから職場が明るい、楽しいという環境を今年一年作れるよう奮闘する。続いて東日本本部松井執行委員長が問題提起を行った。（2面要旨別掲）

職場からの報告

宮城県支部山田書記長

職場問題。合理化・委託化が進む。JRと比較し仕事国内的には公共事業をバラまき、輸出型大企業が儲ければ、トリクルダウンで中小労働者も潤うと主張。高度成長期の路線。脱却するには賃上げと雇安定から国内消費回復しかない。春闘は単に労働者の生活のための闘いではなく、日本経済・日本社会全体を立て直せるかの鍵を握るもの。

がキツく、手当が安い。職場のTSSのプロパー社員、28歳で年収24万。結婚も難しい。インフル予防接種は自腹。太学堂ではロッカー室、風呂トイレ、休養室が男女共用。泊まり勤務もありおかしいと話し、我々も組合通じて改善を要請。どうにか予算が付き改善。我々が出向しても制服、営業用のコート、アノラックが貸与されず。JRのものを使用するしかない」とブロック長、偽装請負では、と指摘すると「仕方ない」の返答。一つ一つ改善に向けて国労が話をしていくしかない。

職場状況。昨年現場長交渉など話し合いができなかった分会は達成するよう取組みを強化する。貨物会社は15年ベアゼロに加え期末手当の超額回答。モチベーション低下や若者の転職による要員不足から輸送障害多発の悪循環に。交運労協と産別の課題として運動を進める。

支部はエルダー交流会や委託提案があればチラシ配布等で問題点を広める取組をしている。組織強化。定年・若年退職者：相談せず辞めている人がポツポツ。個々人との繋がりや話し合う場を持つと提起。拡大では、プロパー社員との交流・繋がり強化を進めている。

只見線駅の社員配置が国労に偏り。輸送障害改善されないためポイント転換を少なくスルー化運動を提案。しかし現場では人的ミスをおそれPRCに固執している。設備系では直轄伐採業務が増大、検査・監督業務に支障し超勤で穴埋め。一方超勤を歓迎する若手も組織強化・拡大。郡山設備分会設立は、班交流を通じて若手へ声かけの促進に期待。一方で一人勤務の間歇では話題不足に悩む組合員も。戸惑いや悩みを受止めつつ他労組の仲間と届く取組みを作る。

春闘。貨物は15年ベアゼロ、東も昇級はあったが格差付。国労としては格好付けず、泥臭く粘り強く闘う以外にない。2月16日、宮城県支部春闘総決起集會を開催する。

原発。原発いらぬ集會の成功を。政治課題。解散総選挙の

東日本本部提起

15春闘。12月17日、本部業務部長会議を経て1万5千円ペアの統一要求を決定、2月12日に各社へ申し入れ、3月18日回答指定日。

エリアは1月9日の執行委員会で1万5千円統一要求の組立て方について議論。人事・賃金制度に変わり、所定昇給額が職制毎に違う...これを変えることが本来のペアと認識するが、昨年は所定昇給額1/4の結果。2月10日のエリア委員会まで意見を賜り反映する。

労働条件に関する協約。締結後、労働条件の向上に向け通年闘争の位置づけ。改訂は困難だが進展も。5月7日付で新幹線通勤の時間的制約枠の撤廃。また青年・婦人部の交渉から中央病院のサービス残業が改善。

敵と己を知ること~我々は分割・民営化反対を闘い、結果的に民営化・分社化に。不採用問題は解決したが、国鉄闘争の総括、勝負で言えば敗北を認めていない。ゆえに国労イズムは未だに分割・民営反対にあり突き合わせが必要。組織の現状。東京支社内の国労の組織率は9%台。

JR東、年間連結総売上2兆7千億から8千億。日立製作所と比較し、中間決算では日立が4兆4千億売上、経常利益が2千100億、JR東では1兆3千億売上、経常利益が2千500億。数字上ではJR東が優良企業。考慮し賃上げを求める。

分割民営から29年。JR各社の現

状...九州は株放出をし民営化、四国・北海道・貨物は国の減免措置や助成がなければ立ち行かない。西・東は鉄道事業から他の事業にシフト、東海は99%東海道新幹線、リニア...30年の中で変化してきた。おのずと労組も対応・対処が変わらなければならない。現状の国労で可能かと言えばかなり難しい。本部含め議論していく。

富田社長は年頭挨拶で、グループ全体のあらゆる業務で人的・物的コストを下げることを明言。委託・外注化を一層進めることであり、労組としてどう対峙するかが課題。

昨年発足したJR東日本ステーションサービス(ジェス)のプロパー社員230人中200人強が未加入。大多数が無協約状態。労使関係を作らせないというJR東日本の労務政策。人事・賃金制度も同様だが会社対個人。ここをしっかりと対処しなければ労働組合の未来はない。

エルダー制度は当初雇用の受け皿と言われていたが、アウトソーシング(外注化)は会社の経営戦略の大きな柱。今後約10年、ふたコブ目の世代を使い切るのが会社施策の狙い。

今後、列車を利用する世代が減少、輸送力の減にシフト換え。先を見越した運動の提起と取組みが求められる。

来年結成70年、今年も尼崎、余目の脱線事故から10年の節目の年。安全の取組は労組として大きな課題。具体的取組みは地方と相談し進める。

昨年10月、冬期ダイヤ改正に対する説明交渉で72項目の改善要求。福島支店の新宿・福島間運行のあぶくま号の運用で生じる勤務変更では、当日の変更にも関わらず超勤扱いをしていないことが改善された。ただ休憩時間に待機せざるを得ない乗務員の扱いは無賃。電話連絡時間数分のみ超勤扱い。今後も改善を求める。

自動車支部北山委員長

意見交換では国労の取組みに賛同もあるが、試験関係では不利である感は拭えず。今後は職場の問題や話題だけでなく、国労の考えと主張をしっかりと相手に伝えるよう改善が必要。

年末手当。10月27日、要求提出、11月17日に初めてバス東北会社が交渉に応じた。だが国労1回に対し、東労組は5回で差が。12月5日に2・3ヶ月、プラス加算額2万円回答。組織強化・拡大。昨年南・北ブロックで8月と9月に取組み。

全体討論

JR総連・JR東労組は殺人

昨年10月、冬期ダイヤ改正に対する説明交渉で72項目の改善要求。福島支店の新宿・福島間運行のあぶくま号の運用で生じる勤務変更では、当日の変更にも関わらず超勤扱いをしていないことが改善された。ただ休憩時間に待機せざるを得ない乗務員の扱いは無賃。電話連絡時間数分のみ超勤扱い。今後も改善を求める。

ある仲間が正社員試験に合格し、仙台での単身赴任生活。5日分まとめて炊飯しおにぎりを作り冷凍、解凍し食事。本当にプロパー社員の間にならぬ闘つてきたのか反省。16日の支部大会で議論を深める。

雪害多発。会社の対応が不十分。運転打ち切りや見合わせの判断が良くない。(新庄連合) 福島・米沢の除雪体制。P社(第一建設)の手が回らずビックロモに添乗。大雪で除雪が進まず、13時に添乗し翌朝5時に戻り。会社も弁当等手配したが、道路も通れず飲まず食わず16時間。土技セ、電力も添乗しぐつたり。

乗しぐつたり。職場の女性社員1人が未加入。(山形連合) 貨物は年末手当が超低額回答。青年がまた辞めそう。ストで元気を。(貨物福島) スト以外、運動をやり尽くした感も。要求額を本気で闘いとる気持ちがあるのか。仙台総行動は日程調整で開催を。(貨物宮城) 仙台総行動は調整し取組みを。15春闘、ストを配置し職場から闘いを。14春闘では会社回答後、休日を挟んで受結。再回答を求めて抗議するなど時間を設け闘いや判断を。

建築では特認工事が年末年始、元旦を除き行われた。休むときはしっかりと休ませると地本から支社に要請を。建築分会で地本会議室の借用不可の事象が。使用出来ない内容といふことだが、空いているときは許可を。仙山線事故。運転再開を優先し、旅客救済を後回しにした。気動車を配置・運用すべきと提言を。政治闘争。春に統一自治体選挙。行動で我々の姿勢を見せ訴えよう。客・貨一体で闘つ。(宮城県支部) 休憩時間や勤務終了後、5分10分、業務をしているがほぼサービス労働。見過ごしているが月間ではどうか。数千円の賃上げをしてもらえれば以上のサービス労働では実質賃下げ。作業ダイヤの見直しも含め働いた分は要求し主張しなければ。日々の働き方に目を向け、取組む。(米沢連合)

分会状況等。4時起きで2時間の除雪、6時に出発し4時間かけて通勤。帰ってからまた除雪。只見線の社員配置は組合が偏り差別的捉え方。だが経年し、只見線に残せと意識の変化も。若松地区分会大会では、14箇所の「職場報告」を作成、提出してもらい議案にして討論。除雪不十分による運休の多発。長岡の乗務員との交流も考え取組みを強化。若松テクノで洗い場廃止による問題が発生したが、組織運動の窓口がない。窓口開設を。(若松地区) 郡山地区の保線、電力、通信、建築で設備分会を設立し40人でスタート。春闘が最初の運動課題。一人でも多くの組合員が参加するよう取組む。(郡山設備) 職場状況。福島駅でサービスクレジットが蔓延。どう対処するか。若手の意見も聞き取組を進める。福島駅では要員が逼迫し臨時窓口箇所閉鎖や二本松駅に助動できず。検証し春闘課題に。(福島地区) 総行動の日程について意見が二分。執行委員会判断にしては。(仙総・台車) 北部現業交流会に貨物分会も参加。交流会では旅客の仲間からもストを打つとの声、止めるべきの声はなし。ストを打つ方向で指導を。地本に支部スペースの確保を。(仙台分連協) 毎年だが未だエルダー職場の提示なし。協力会社も新採枠の数で困っている。

分会状況等。4時起きで2時間の除雪、6時に出発し4時間かけて通勤。帰ってからまた除雪。只見線の社員配置は組合が偏り差別的捉え方。だが経年し、只見線に残せと意識の変化も。若松地区分会大会では、14箇所の「職場報告」を作成、提出してもらい議案にして討論。除雪不十分による運休の多発。長岡の乗務員との交流も考え取組みを強化。若松テクノで洗い場廃止による問題が発生したが、組織運動の窓口がない。窓口開設を。(若松地区) 郡山地区の保線、電力、通信、建築で設備分会を設立し40人でスタート。春闘が最初の運動課題。一人でも多くの組合員が参加するよう取組む。(郡山設備) 職場状況。福島駅でサービスクレジットが蔓延。どう対処するか。若手の意見も聞き取組を進める。福島駅では要員が逼迫し臨時窓口箇所閉鎖や二本松駅に助動できず。検証し春闘課題に。(福島地区) 総行動の日程について意見が二分。執行委員会判断にしては。(仙総・台車) 北部現業交流会に貨物分会も参加。交流会では旅客の仲間からもストを打つとの声、止めるべきの声はなし。ストを打つ方向で指導を。地本に支部スペースの確保を。(仙台分連協) 毎年だが未だエルダー職場の提示なし。協力会社も新採枠の数で困っている。

分会状況等。4時起きで2時間の除雪、6時に出発し4時間かけて通勤。帰ってからまた除雪。只見線の社員配置は組合が偏り差別的捉え方。だが経年し、只見線に残せと意識の変化も。若松地区分会大会では、14箇所の「職場報告」を作成、提出してもらい議案にして討論。除雪不十分による運休の多発。長岡の乗務員との交流も考え取組みを強化。若松テクノで洗い場廃止による問題が発生したが、組織運動の窓口がない。窓口開設を。(若松地区) 郡山地区の保線、電力、通信、建築で設備分会を設立し40人でスタート。春闘が最初の運動課題。一人でも多くの組合員が参加するよう取組む。(郡山設備) 職場状況。福島駅でサービスクレジットが蔓延。どう対処するか。若手の意見も聞き取組を進める。福島駅では要員が逼迫し臨時窓口箇所閉鎖や二本松駅に助動できず。検証し春闘課題に。(福島地区) 総行動の日程について意見が二分。執行委員会判断にしては。(仙総・台車) 北部現業交流会に貨物分会も参加。交流会では旅客の仲間からもストを打つとの声、止めるべきの声はなし。ストを打つ方向で指導を。地本に支部スペースの確保を。(仙台分連協) 毎年だが未だエルダー職場の提示なし。協力会社も新採枠の数で困っている。

分会状況等。4時起きで2時間の除雪、6時に出発し4時間かけて通勤。帰ってからまた除雪。只見線の社員配置は組合が偏り差別的捉え方。だが経年し、只見線に残せと意識の変化も。若松地区分会大会では、14箇所の「職場報告」を作成、提出してもらい議案にして討論。除雪不十分による運休の多発。長岡の乗務員との交流も考え取組みを強化。若松テクノで洗い場廃止による問題が発生したが、組織運動の窓口がない。窓口開設を。(若松地区) 郡山地区の保線、電力、通信、建築で設備分会を設立し40人でスタート。春闘が最初の運動課題。一人でも多くの組合員が参加するよう取組む。(郡山設備) 職場状況。福島駅でサービスクレジットが蔓延。どう対処するか。若手の意見も聞き取組を進める。福島駅では要員が逼迫し臨時窓口箇所閉鎖や二本松駅に助動できず。検証し春闘課題に。(福島地区) 総行動の日程について意見が二分。執行委員会判断にしては。(仙総・台車) 北部現業交流会に貨物分会も参加。交流会では旅客の仲間からもストを打つとの声、止めるべきの声はなし。ストを打つ方向で指導を。地本に支部スペースの確保を。(仙台分連協) 毎年だが未だエルダー職場の提示なし。協力会社も新採枠の数で困っている。

分会状況等。4時起きで2時間の除雪、6時に出発し4時間かけて通勤。帰ってからまた除雪。只見線の社員配置は組合が偏り差別的捉え方。だが経年し、只見線に残せと意識の変化も。若松地区分会大会では、14箇所の「職場報告」を作成、提出してもらい議案にして討論。除雪不十分による運休の多発。長岡の乗務員との交流も考え取組みを強化。若松テクノで洗い場廃止による問題が発生したが、組織運動の窓口がない。窓口開設を。(若松地区) 郡山地区の保線、電力、通信、建築で設備分会を設立し40人でスタート。春闘が最初の運動課題。一人でも多くの組合員が参加するよう取組む。(郡山設備) 職場状況。福島駅でサービスクレジットが蔓延。どう対処するか。若手の意見も聞き取組を進める。福島駅では要員が逼迫し臨時窓口箇所閉鎖や二本松駅に助動できず。検証し春闘課題に。(福島地区) 総行動の日程について意見が二分。執行委員会判断にしては。(仙総・台車) 北部現業交流会に貨物分会も参加。交流会では旅客の仲間からもストを打つとの声、止めるべきの声はなし。ストを打つ方向で指導を。地本に支部スペースの確保を。(仙台分連協) 毎年だが未だエルダー職場の提示なし。協力会社も新採枠の数で困っている。

分会状況等。4時起きで2時間の除雪、6時に出発し4時間かけて通勤。帰ってからまた除雪。只見線の社員配置は組合が偏り差別的捉え方。だが経年し、只見線に残せと意識の変化も。若松地区分会大会では、14箇所の「職場報告」を作成、提出してもらい議案にして討論。除雪不十分による運休の多発。長岡の乗務員との交流も考え取組みを強化。若松テクノで洗い場廃止による問題が発生したが、組織運動の窓口がない。窓口開設を。(若松地区) 郡山地区の保線、電力、通信、建築で設備分会を設立し40人でスタート。春闘が最初の運動課題。一人でも多くの組合員が参加するよう取組む。(郡山設備) 職場状況。福島駅でサービスクレジットが蔓延。どう対処するか。若手の意見も聞き取組を進める。福島駅では要員が逼迫し臨時窓口箇所閉鎖や二本松駅に助動できず。検証し春闘課題に。(福島地区) 総行動の日程について意見が二分。執行委員会判断にしては。(仙総・台車) 北部現業交流会に貨物分会も参加。交流会では旅客の仲間からもストを打つとの声、止めるべきの声はなし。ストを打つ方向で指導を。地本に支部スペースの確保を。(仙台分連協) 毎年だが未だエルダー職場の提示なし。協力会社も新採枠の数で困っている。

分会状況等。4時起きで2時間の除雪、6時に出発し4時間かけて通勤。帰ってからまた除雪。只見線の社員配置は組合が偏り差別的捉え方。だが経年し、只見線に残せと意識の変化も。若松地区分会大会では、14箇所の「職場報告」を作成、提出してもらい議案にして討論。除雪不十分による運休の多発。長岡の乗務員との交流も考え取組みを強化。若松テクノで洗い場廃止による問題が発生したが、組織運動の窓口がない。窓口開設を。(若松地区) 郡山地区の保線、電力、通信、建築で設備分会を設立し40人でスタート。春闘が最初の運動課題。一人でも多くの組合員が参加するよう取組む。(郡山設備) 職場状況。福島駅でサービスクレジットが蔓延。どう対処するか。若手の意見も聞き取組を進める。福島駅では要員が逼迫し臨時窓口箇所閉鎖や二本松駅に助動できず。検証し春闘課題に。(福島地区) 総行動の日程について意見が二分。執行委員会判断にしては。(仙総・台車) 北部現業交流会に貨物分会も参加。交流会では旅客の仲間からもストを打つとの声、止めるべきの声はなし。ストを打つ方向で指導を。地本に支部スペースの確保を。(仙台分連協) 毎年だが未だエルダー職場の提示なし。協力会社も新採枠の数で困っている。

分会状況等。4時起きで2時間の除雪、6時に出発し4時間かけて通勤。帰ってからまた除雪。只見線の社員配置は組合が偏り差別的捉え方。だが経年し、只見線に残せと意識の変化も。若松地区分会大会では、14箇所の「職場報告」を作成、提出してもらい議案にして討論。除雪不十分による運休の多発。長岡の乗務員との交流も考え取組みを強化。若松テクノで洗い場廃止による問題が発生したが、組織運動の窓口がない。窓口開設を。(若松地区) 郡山地区の保線、電力、通信、建築で設備分会を設立し40人でスタート。春闘が最初の運動課題。一人でも多くの組合員が参加するよう取組む。(郡山設備) 職場状況。福島駅でサービスクレジットが蔓延。どう対処するか。若手の意見も聞き取組を進める。福島駅では要員が逼迫し臨時窓口箇所閉鎖や二本松駅に助動できず。検証し春闘課題に。(福島地区) 総行動の日程について意見が二分。執行委員会判断にしては。(仙総・台車) 北部現業交流会に貨物分会も参加。交流会では旅客の仲間からもストを打つとの声、止めるべきの声はなし。ストを打つ方向で指導を。地本に支部スペースの確保を。(仙台分連協) 毎年だが未だエルダー職場の提示なし。協力会社も新採枠の数で困っている。

分会状況等。4時起きで2時間の除雪、6時に出発し4時間かけて通勤。帰ってからまた除雪。只見線の社員配置は組合が偏り差別的捉え方。だが経年し、只見線に残せと意識の変化も。若松地区分会大会では、14箇所の「職場報告」を作成、提出してもらい議案にして討論。除雪不十分による運休の多発。長岡の乗務員との交流も考え取組みを強化。若松テクノで洗い場廃止による問題が発生したが、組織運動の窓口がない。窓口開設を。(若松地区) 郡山地区の保線、電力、通信、建築で設備分会を設立し40人でスタート。春闘が最初の運動課題。一人でも多くの組合員が参加するよう取組む。(郡山設備) 職場状況。福島駅でサービスクレジットが蔓延。どう対処するか。若手の意見も聞き取組を進める。福島駅では要員が逼迫し臨時窓口箇所閉鎖や二本松駅に助動できず。検証し春闘課題に。(福島地区) 総行動の日程について意見が二分。執行委員会判断にしては。(仙総・台車) 北部現業交流会に貨物分会も参加。交流会では旅客の仲間からもストを打つとの声、止めるべきの声はなし。ストを打つ方向で指導を。地本に支部スペースの確保を。(仙台分連協) 毎年だが未だエルダー職場の提示なし。協力会社も新採枠の数で困っている。

分会状況等。4時起きで2時間の除雪、6時に出発し4時間かけて通勤。帰ってからまた除雪。只見線の社員配置は組合が偏り差別的捉え方。だが経年し、只見線に残せと意識の変化も。若松地区分会大会では、14箇所の「職場報告」を作成、提出してもらい議案にして討論。除雪不十分による運休の多発。長岡の乗務員との交流も考え取組みを強化。若松テクノで洗い場廃止による問題が発生したが、組織運動の窓口がない。窓口開設を。(若松地区) 郡山地区の保線、電力、通信、建築で設備分会を設立し40人でスタート。春闘が最初の運動課題。一人でも多くの組合員が参加するよう取組む。(郡山設備) 職場状況。福島駅でサービスクレジットが蔓延。どう対処するか。若手の意見も聞き取組を進める。福島駅では要員が逼迫し臨時窓口箇所閉鎖や二本松駅に助動できず。検証し春闘課題に。(福島地区) 総行動の日程について意見が二分。執行委員会判断にしては。(仙総・台車) 北部現業交流会に貨物分会も参加。交流会では旅客の仲間からもストを打つとの声、止めるべきの声はなし。ストを打つ方向で指導を。地本に支部スペースの確保を。(仙台分連協) 毎年だが未だエルダー職場の提示なし。協力会社も新採枠の数で困っている。